

目 次

まえがき

序 章 ————— I

第1部 理論分析

第1章 難民保護と国際的負担分担：
なぜ負担分担は必要なのか ————— 9

はじめに 9

1 難民の受入に伴う「負担」とは何か 10

2 国際的負担分担に関する規範 11

3 グローバル・レベルでの難民保護と負担分担の状況 13

(1) 難民の移動と難民受入国の状況

(2) 財政的負担分担の状況

(3) 物理的負担分担の状況

4 国際的負担分担を担う理由 18

(1) 人道的・道義的理由とグローバル正義論

(2) 国際的負担分担と国益

おわりに 27

第2章 難民問題と国際的負担分担の歴史の変遷 ————— 31

はじめに 31

1 アフリカ難民国際会議：1981～1984年 32

2 中米難民国際会議：1987～1995年 35

3	インドシナ難民包括的行動計画：1988～1996年	39
4	コンベンション・プラス・イニシアティブ：2003～2005年	42
5	ソリューションズ・アライアンス：2014年～	44
	おわりに	45

第3章 国際的負担分担をどのように実施するか ————— 49

	はじめに	49
1	国際的負担分担を実現するための条件	49
	(1) グローバル公共財	
	(2) ゲーム理論	
2	国際的負担分担の制度化に関するアイデア	55
	(1) 負担の分配に関する基準や指標	
	(2) 制度に関するモデル	
3	国際的負担分担と難民の権利	61
	(1) 財政的負担分担	
	(2) 物理的負担分担と難民の権利	
4	ドナーの政治的動機と負担分担に関する若干の考察	65
	おわりに	66

第2部 事例研究

第4章 難民の受入に伴う負担と難民の経済活動： ウガンダの事例から ————— 73

	はじめに	73
1	ウガンダにおける難民政策	74
	(1) 難民政策概要	
	(2) 難民の法的権利	
2	寛大な難民政策の背景	79
3	難民の経済活動と経済的貢献	82

- (1) ナキバレ難民居住地
- (2) カンバラ

おわりに 87

第5章 財政的負担分担としての難民開発援助と ドナーの動向：デンマークの事例から ————— 94

はじめに 94

- 1 ヨーロッパにおける「出身地域保護論」と EU 諸国 95
- 2 デンマークにおける難民問題と「出身地域イニシアティブ」 97
 - (1) 難民問題の「政治化」
 - (2) フォー・ラスムセン政権下の開発援助政策
 - (3) ROI と援助実施体制
 - (4) ROI と「市民社会組織」
- 3 デンマークによる「出身地域イニシアティブ」と
難民保護の負担分担 102
 - (1) 難民受入国の負担とは何か
 - (2) 「出身地域イニシアティブ」：概要
 - (3) デンマークとザンビア・イニシアティブ (ZI)

おわりに 109

第6章 第三国定住と難民保護の現実： ケニアに居住するソマリア難民の事例から ——— 114

はじめに 114

- 1 ケニアにおけるソマリア難民の状況 115
- 2 ケニアにおける難民政策 117
- 3 難民問題の恒久的解決策とソマリア難民 122
 - (1) 自発的帰還
 - (2) 庇護国定住
- 4 第三国定住の実態 128
 - (1) 第三国定住のプロセス

(2) ケニアに住むソマリア難民の第三国定住受入

5 第三国定住の問題 132

おわりに 137

第7章 国際的難民保護の「物理的負担分担」と第三国 定住受入国の動向：カナダの事例から ————— 145

はじめに 145

1 カナダにおける難民政策の変遷 147

(1) 第1期 (1945～1969年)

(2) 第2期 (1969～1978年)

(3) 第3期 (1978～2002年)

(4) 第4期 (2002年以降)

2 カナダにおける第三国定住政策 158

(1) 国外難民保護制度概要

(2) 国外保護制度の制度的問題

3 なぜ第三国定住難民を受け入れるのか 163

(1) 人道主義的伝統

(2) 庇護申請者・難民の選別と経済的正当化

(3) 対外的イメージ

おわりに 175

終章 ————— 187

あとがき

著者紹介